

ともがき

1月号

HP <http://www.ed-tsuyama.jp/chusei-es/>

学校教育目標

夢をもち かしく やさしく 元気な子を育てる

新しい年が始まりました。今年もよろしくお願ひいたします。

子ども達は久しぶりの登校でした。大そうじをしたり、買い物に行ったりしてゆっくりに家族と過ごしたという人がいました。親戚の家に行ったり、泊まりに来られたりして、日頃なかなか会えない人に会えたという人もいました。

長い休みはそれぞれの家庭で過ごして、子ども達も楽しかったと思います。



一日之計在晨（一日の計は晨（あした）にあり）

一年之計在春（一年の計は春にあり）

一生之計在勤（一生の計は勤にあり）

一家之計在身（一家の計は身にあり）

始業式では「一年の計は元旦にあり」という話をしました。起源には諸説ありますが、その中の中国での説を話しました。

「初頭に設計を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まる」ということです。

調べていると、「一生の計は少壮（＝若くて意気盛んな時期）にあり」という言葉もありました。青年期に生涯で為すべきことを考えておくべきであるという意味です。現代社会においては、青年期に至るまでの少年期でも、たくさん



の情報やサクセスストーリーに触れることができます。選択肢がたくさんある中で、長い目を持ちながら、自分の道を決めることができるといいと思います。

教育改革

平成32年度から子ども達の教育環境が大きく変化します。祖父母世代や保護者世代がこれまで経験していない学習も入ってきます。今の

子ども達がこれからの変化の激しい時代に生き抜く力を育むためです。

① 働き方の変化

「ネット社会」といわれるように、通信技術はめざましく発達しています。ネットで買い物をするのもごく一般的になっています。自分の畑や田んぼで穫れた野菜や米をネットで売る農家の方もいます。また、自分が栽培・収穫したものを加工して販売する「6次産業」もあります。新しいアイデアを出したり、取り入れたりする柔軟な思考が必要になってきます。個々の生活の仕方などにも合わせて選択肢が広がります。



② 外国の人との共存

大きな企業では約3割が「外国人留学生を採用している」というデータも出ているそうです。今の小学生が10年後、20年後に外国の人と一緒に働くのが地方でも当たり前になるかもしれません。コミュニケーションを取れるように国全体の施策として英語の活用力は重視されます。

③ 新しい職業の可能性

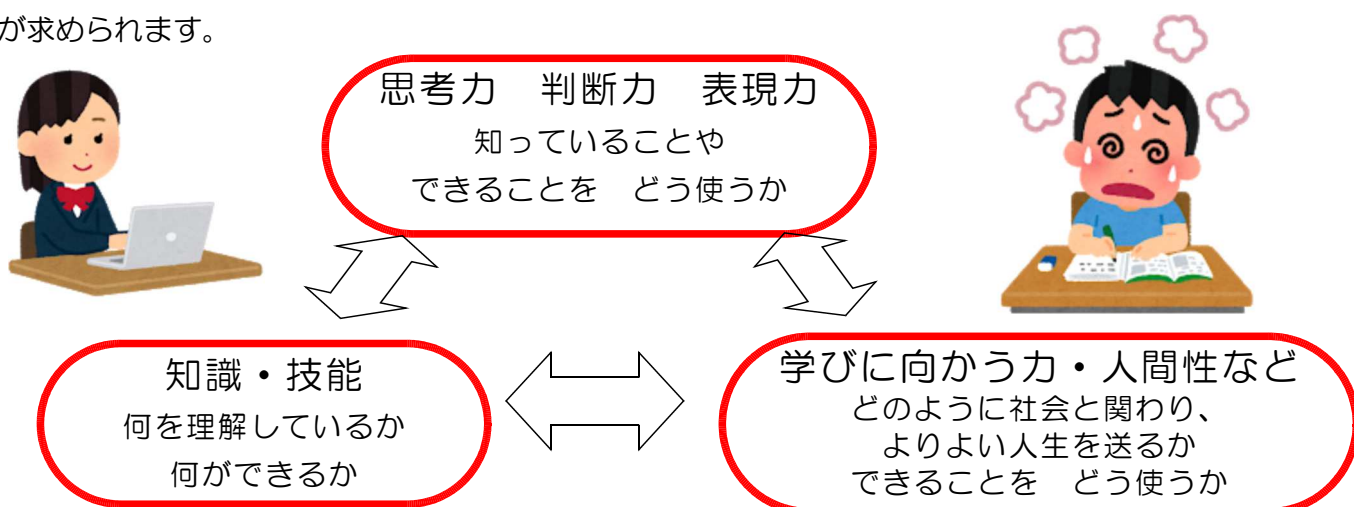
マスコミでもよく取り上げられていますが、これまでの仕事がなくなってしまう、これから新しい仕事が生まれる可能性があると言われていています。子ども達に人気の職業のYouTuberやゲーマーなどは以前はありませんでした。自分で考えて新しいことにも主体的・意欲的に取り組んでいく力が必要です。

1 大学入試改革

- 大学入試センター試験（知識を問う問題が中心 全問マークシート方式）
→大学入試共通テスト（思考力・判断力・表現力を問う問題 マークシート方式+記述式）
に変わります。大学ごとの特徴を踏まえた個別の選考方式が導入されます）
- 英語で、民間資格や検定試験が利用され、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の力が問われます。

2 学習指導要領の改訂

- 平成32年度は小学校、平成33年度は中学校、平成34年度は高等学校でそれぞれ指導要領の改訂が実施されます。今の6年生が高校に入学する時に変わります。今は「総合科」「情報処理科」「国際経済科」などいろいろな科があります。それぞれの高校がこれまで以上に学校の特色を出してきます。中学校では、普段の授業の様子や提出物などをもとに「学びに向かう力・人間性」の観点で評価されます。定期テストでは「知識・技能」、普段の授業の様子や定期テスト・実技テストなどで「思考力・判断力・表現力」を評価されます。
- 小学校では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されるようになります。そのために大きな3つの柱が求められます。



本校でも平成32年度に向けて研修を重ねていきます。また、新学習指導要領実施による英語科の本格導入や時間数の関係で、これまでの学習を見直して、活動内容を変えたり、行事の持ち方を変えたりする必要があります。しかし、上の図にある力をつけるのは、学校教育だけでは難しいでしょう。

子ども達のことを「これからどうなるんだろう」と不安になることもあるかもしれません。しかし、子ども達には未来や可能性があります。たくましく成長していけるように、周囲の大人がどのようにかかわるかが重要になってきます。



誰でも、自分の子どもはかわいいし、つらい思いをさせたくはないし、望むことは叶えてやりたいと思います。学校では、子ども達に一番効果的でわかりやすく、短時間で身につくように教師が工夫して教えることが多かったように思います。「失敗をさせないように」とうまくいく手立てを考えることが中心ではなかったかとも思います。これまで求められてきた「知識・技能」「活用」であれば、それでよかったのです。これからは、小学校段階から「社会と関わり、よりよい人生を送る」まで考えて学習をします。

初めてのことや難しいようなことが「できなかつたらどうしよう」と思うのは大人も同じ。「小さな間違いや、取り返すことのできる失敗は、してみればいい」と子ども達を見ていて思います。子ども達が「このくらいなら、大丈夫」とか「失敗しても挽回できる」という気持ちで物事に取り組むことができると、もっと気楽にいろいろなことにチャレンジしやすくなるのではないかと思います。

自分から主体的に行動できるようになれば、良い結果でも、そうでなくても自分の中のエネルギーになっていくのではないのでしょうか。